

静岡県

—愛すべき故郷—

人文社会科学研究科
文芸・言語専攻 応用言語学領域
田中佑

1. 静岡県の概要

筆者の故郷である「静岡県」について紹介したい。静岡県は面積約 7,760 平方キロメートル（全都道府県中 13 位）、人口約 337 万人（全都道府県中 10 位）で暑過ぎず、寒過ぎない非常に住みやすい地域である。特産はお茶やわさび、みかんなどを始めとする農産物と桜海老やシラス、ウナギなどの水産物で、それらを用いた様々な加工物が製造されている。特産物からもわかるように非常に水がきれいな土地でもある。1960 年代には静岡県を象徴する鳥や花が県民の投票で決定され、それぞれ「サンコウチョウ」「ツツジ」が選出されている。また、その他の特徴として「分類が曖昧」と「関東文化の最西端」という 2 点が挙げられる。以下、その 2 つの特徴を見ていきたい。

2. 静岡県の特徴

2. 1. 曖昧な分類

静岡県は一般に東日本に分類され、東海地方に所属しているとされる（少なくとも県民はそう思っている）が、実際は国内のどの地域に属しているのか定かでない例がある。まず、それは天気予報に端的に現れている。そもそも放送対象に入っていないことが原因と考えられるが、「東海」の名を含む東海テレビの天気予報には静岡県の天気は表示されない。

また、静岡県は J リーガー出身地第一位、少年サッカー発祥地などから「サッカー大国」と呼ばれている。しかし、サッカーに目を向けてみると、また一般的な認識とは異なる分類に気付く。J リーグでは 2007 年までチームを東西に分け、オールスター戦を行っていた。静岡県にも J1 のチームがあるが、J-WEST、つまり、東日本に分類されている。

以上 2 点を上に挙げたが、この他にも NTT は西日本に属しているなど、大袈裟に言えば、県民のアイデンティティが確立できないような地域なのである。

2. 2. 関東文化圏の端

静岡県を歴史的に見ると、現在の静岡県が遠江国、駿河国、伊豆国の三国から成ることがわかる。そして、それぞれがおおよそ現在の静岡県西部、中部、西部・伊豆に対応する。遠江国、現在の西部は三河国、つまり、現在の愛知県と隣接しているため、幾分三河国の影響を受けている（方言にも顕著に現れている）と思われるが、三河国という特殊な文化圏をはさんでそれ以西は関西の文化圏となるため、静岡県が関東文化圏の端と言える。方

言に関しても、イントネーションや語彙はほとんど東京方言と変わらず、共通語に最も近い方言の一つとされている。しかし、幾つかの名詞のアクセントが異なっていたり、独特な終助詞を持っていたりする。以下、幾つかの例を紹介したい。

3. 静岡弁

先に記したように、静岡弁はほとんど東京方言と変わらないが、幾つかの名詞はアクセントが異なる。

- (1) くつ 東京－静岡：LH – HL
 (2) ふく LH – HL
 (3) しらす LHH－ HLL

また、終助詞には独特なものが多い（(9)は東部・伊豆のみ）。

- (4) あいつん宅、行くら？（あいつの家に行くの？）
 (5) 昨日、サッカーやったら？（昨日はサッカーやったんでしょ？）
 (6) 明日、東京行くだら？（明日は東京に行くんでしょう？）
 (7) お土産買ってきてや。（お土産を買ってきてよ。）
 (8) 今日、本買いに行ったっけ。（今日は本を買いに行ったんだ。）
 (9) 8時の電車に乗ってきたさ。（8時の電車に乗ってきたんだ。）

4. 愛すべき故郷・金谷

最後に筆者の故郷を紹介したい。筆者の故郷は静岡県中部の金谷という地域であり、大井川の西側に位置する静岡県中部地方の最西端にある田舎町である。静岡県の中でも特にお茶の生産している地域の一つで、茶畑など緑が豊富な点、現在でもSLが走っている点など、古き良き時代の日本が感じられる地域である。また、歌川広重や葛飾北斎に描かれるなど、金谷の緑と大井川、そして富士の3つが織り成す自然は、是非一度は堪能していただきたいものである。

5. 質疑応答

Q：静岡県のわさびは他県のわさびと比べて何が違うのか。

A：静岡県産のわさびは辛味だけでなく、甘味があるのが特徴である。これは静岡の温暖な気候ときれいな水をもって始めて生み出せる味であると思う。

Q：食文化はどのような特徴があるか。

A：静岡県は関東のほぼ食文化そのものであるといえると思う。根拠としては、もちの形が四角なことや醤油は濃い口を使うなど幾つか上げられる。また、愛知県と隣接しているため、名古屋の食文化の影響を受けているように思われているかもしれないが、そのようなことはほとんどなく、静岡県中部地方に関しては名古屋の味噌を使うこともない。

2010/06/14

IFERI セミナー

プヨ バティスト
筑波大学人文社会科学研究所
文芸言語専攻フランス語学領域
一貫制修士課程一年次

バスク国について

1. バスク国の位置

バスク国とは、バスク人とバスク語の歴史的な故国を指す概念である。ピレネー山脈の両麓に位置し、ビスケー湾に面しており、フランスとスペインの両国にまたがっている。スペイン側にバスク自治州があるが、歴史的なバスク国には、スペインのナバーラ州およびフランスのピレネーアトランティック県の各一部が含まれる。

2. 地域区分

バスク国は伝統的に7つの地域からなっており、バスク語の「Zazpiak Bat」（7つが集まって1つとなる）は、バスク人のスローガンである。Hegoalde（南部）と呼ばれる4つの地域はスペイン内にあり、Iparralde（北部）と呼ばれる3つの地域はフランス内にある。南バスク（スペインバスク）4地域は、いずれもスペインとして位置づけられている。このうち西部の3地域（3県）は、バスク自治州を構成している。東部の1地域は、1県でナバラ州を構成している。北バスク（フランス領バスク）3地域は、フランスのピレネーアトランティック県の一部である。行政団体としての位置づけはされていない。

3. バスク民族運動の勃興

統一されたバスク国という概念が近代バスク民族運動の中で展開され、現在もバスク国全体の独立を目指す運動がある。以下、バスク民族運動の勃興の歴史について簡単にまとめる。今日バスク国の旗として知られるイクリニャは、1894年に生み出されたものである。次の年には、バスク民族主義者の政党としてバスク国民党(EAJ-PNV)が結党された。1936年10月には、スペイン第二共和政が、スペイン内戦の最中にバスク自治政府を認めた。バスク自治政府は共和国側に立ち、フランコ軍と戦った。この内戦の中で、中世におけるバスクの自治の象徴であったゲルニカは1937年4月26日に爆撃を受けた。1937年6月には、バスク自治政府の首都であるビルバオがフランコ軍に占領され、自治政府は事実上活動を停止した。1959年には、バスク国の分離独立を目指す民族組織であるETA（バスク祖国と自由）が成立された。後の非常に活発で過激な都市ゲリラ組織である。1978年には、スペイン憲法によってバスク3県（アラバ・ビスカヤ・ギプスコア）にバスク自治州が設定された。結果として1979年10月25日に国民投票で自治政府の行政機構を定めた地方自治憲

章（ゲルニカ憲章）が承認された。現在は、バスク民族運動がまだ続いており、テロ活動の収束には至っていない。

2. バスク語

1960年代、バスク語こそがバスク民族存在の証であり、バスク・ナショナリズムの象徴であると再確認され、バスク語復権運動が始まった。イカストラ（ikastola）と呼ばれるバスク語学校では、バスク語を使用してバスク語を教えるのが特徴であり、バスク語話者の減少が顕著な都市部を中心に展開された。また、1968年にバスク語アカデミーが「統一バスク語」を制定した。これは今日まで継続しているバスク語正書法整備の基礎である。

バスク語は、ネアンデルタール人 *Homo neanderthalensis* の言語だ、というジョークがある。ネアンデルタール人は、2万8000年前、イベリア半島の先端で姿を消してしまった。イベリア半島では正体不明の非印欧語族の痕跡も見つかっており、バスク語は、氷河時代から存在していた先住民族の言語だと考えられている。実際のところ、バスク語はインド・ヨーロッパ語の海の中に浮かぶ孤島であって、系統的に類似した言語は存在しない。バスク語は、3000年におよぶ印欧語化の波に抵抗して生き残った、西欧における唯一の前印欧語的言語なのである。バスク語は、世界のどの言語とも親族関係が無く、孤島語としては世界一有名な言語である。

バスク語をかじった日本人の友達によると、以下に挙げるような特徴が日本語に似ているのでスペイン語より覚えやすいそうである。

主語に、主格「が」と能格「は」の使い分けがある、前置詞ではなく後置詞を使う、文における語の順序はS+O+Vを基本とする、名詞の前に形容詞が置かれる、冠詞はない、人称代名詞は一人称、二人称、三人称があり、それぞれ単数形と複数形に分けられる、性別はない、愛称がある（Aita-txo ; Ama-txo）。さらに、語彙比較のレベルで日本語は、ネパール語・ヨーロッパ語・アイヌ語とより似ている。（大学書林刊 吉田浩美著『バスク語常用6000語』）

バスク民族は西はポルトガル、東はフランスという二つの強い国に挟まれながらも、ピレネー山脈によって民族の独立性を現代まで保ち続けてきた。「民族の独立性」ということの中核にあるものは言語である。バスクの言語は周辺とは全く異なり、ヨーロッパ語とは凡そ似ておらず、言語系統樹の上でもはみ出ている。